

平成 29 年 8 月 31 日

お客様各位

日本農薬株式会社

農薬登録のご連絡の件

首記の件、下記について登録されましたのでご連絡致します。

記

適用拡大 平成 29 年 8 月 30 日付 (3 件)

(1)フジドーLフロアブル

登録第 23002 号

①作物名の追加: やまのいも(葉渋病), 500 倍、やまのいも(むかご)(葉渋病), 500 倍

②適用病害虫名の追加: 茶/褐色円星病(500 倍)

【追加・変更後】

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	銅を含む農薬の総使用回数
やまのいも やまのいも(むかご)	葉渋病	500 倍	100~300ℓ /10a	—	—	散布	—
茶	炭疽病 もち病 赤焼病 網もち病 新梢枯死症 褐色円星病	500 倍	200~400ℓ /10a	摘採 14 日前 まで			

\* 注意事項の変更はありません。

(2)ブイゲットパディート粒剤

登録第 23666 号

使用時期の変更: 稲(箱育苗) フタヒコヤガ、コブノメイガ/移植 3 日前~移植当日⇒緑化期~移植当日

イナゴ類/移植当日⇒緑化期~移植当日

【変更後】

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアトラニリプロールを含む農薬の総使用回数	チアジニルを含む農薬の総使用回数
稲(箱育苗)	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 イネミズウムシ イネドロイムシ ニカメイチュウ ツマグロヨコバイ イネヒメハモグリバエ フタヒコヤガ コブノメイガ イナゴ類	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土 壌約 5ℓ) 1 箱当り 50g	緑化期~移植当日	1 回	本剤の所 定量を育 苗箱の上 から均一 に散布す る	1 回	3 回以内 (移植時ま での処理は 1 回 以内、本田で の散布は 2 回 以内)
	イネオムシ		移植 3 日前~移植当日				

\* 注意事項の変更はありません。

(3)モンカット水和剤

登録第 15931 号

1) 希釈倍数を希釈倍数又は使用量に変更するとともに使用液量を記載する。

① 稲・小麦: 60~150ℓ/10a

② みつば(水耕栽培): 60ℓ/10a

③ きゅうり、トマト、ミニトマト、ピーマン(施設栽培)、ピーマン(露地栽培)の 500~1000 倍: 3ℓ/m<sup>2</sup>

2) 使用方法を変更する。

きゅうり、トマト、ミニトマト、ピーマン(施設栽培)、ピーマン(露地栽培)の 500~1000 倍:

希釈液 3ℓ/m<sup>2</sup>を土壌面に灌注⇒土壌灌注

【変更後】

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フルタニルを含む農薬の総使用回数
稲	紋枯病 疑似紋枯症 (褐色菌核病菌) 疑似紋枯症 (赤色菌核病菌)	1000倍	60~150ℓ /10a	収穫14日前 まで	3回以内	散布	3回以内 (小包装投入は1回 以内)
小麦	雪腐小粒菌核病	400倍		根雪前	2回以内		2回以内
みつば (水耕栽培)	立枯病	1000倍	60ℓ/10a	収穫 30 日前 まで	1回		2回以内 (種子粉衣は1回 以内、は種後は 1回以内)
ばれいしょ	黒あざ病	50~100倍	—	植付前		10分間種いも浸 漬又は種いもに 十分量散布	1回
きゅうり トマト ミニトマト	苗立枯病 (リゾクニア菌)	500~1000倍	3ℓ/m <sup>2</sup>	は種時~ 子葉展開時	2回以内	土壌灌注	2回以内 (種子粉衣は1回 以内、土壌灌注 は1回以内)
		種子重量の 0.5~1.0%	—	は種前		種子粉衣	
ピーマン (施設栽培)	苗立枯病 (リゾクニア菌)	500~1000倍	3ℓ/m <sup>2</sup>	は種時~ 子葉展開時	2回以内	土壌灌注	3回以内 (種子粉衣は1回 以内、土壌灌注 は2回以内)
		種子重量の 0.5~1.0%	—	は種前		種子粉衣	
ピーマン (露地栽培)		500~1000倍	3ℓ/m <sup>2</sup>	は種時	1回	土壌灌注	5回以内 (種子粉衣は1回 以内、は種時の 土壌灌注は1回 以内、は種後の 株元灌注は3回 以内)
		種子重量の 0.5~1.0%	—	は種前		種子粉衣	

\* 注意事項の変更はありません。

以上